

第四次総合計画 & 中央ゾーン整備構想 について

市では現在、平成13年度(2001年)からの「第四次総合計画」の策定作業を進めています。

総合計画は、市が進める街づくりの指針となる最も重要な計画で、街づくりの目標である将来都市像の実現を目指して、計画的、体系的に施策を推進するために定めるものです。

また、総合計画の策定と並行して、柏駅を中心とした中央地域の整備構想も検討しています。

今号では、第四次総合計画の基本構想と中央ゾーン整備構想の検討状況をご紹介します。



21世紀に向けた ご意見を

柏市長 本多 晃

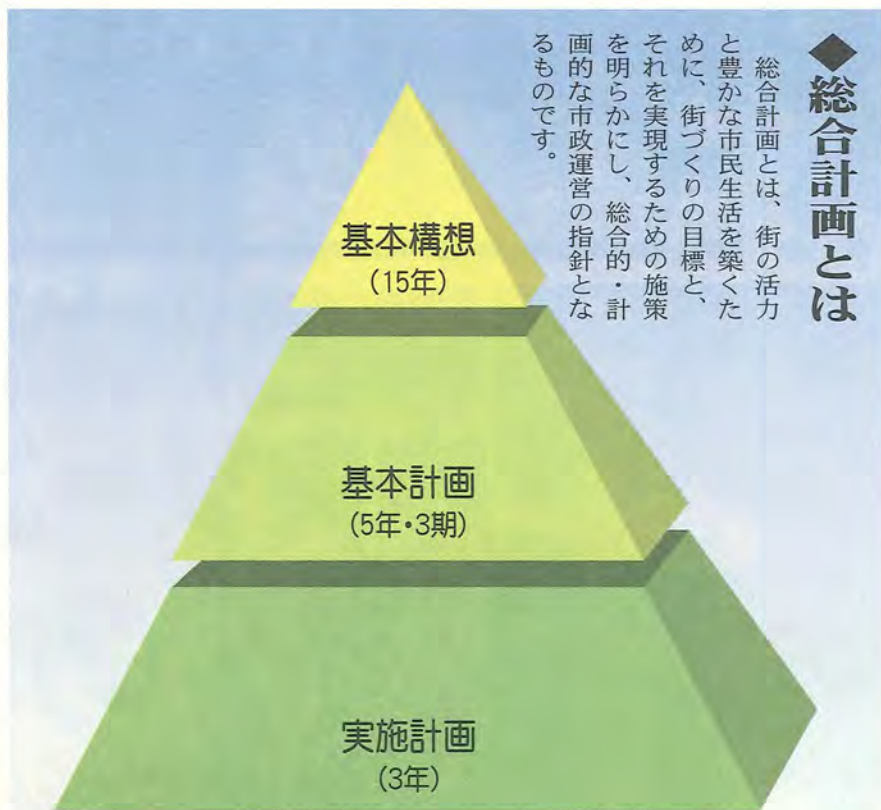
二十一世紀の柏市はどのような街であるべきか。市では現在、平成十三年度からの街づくりの指針となる、第四次総合計画の策定に向け検討を重ねています。これまで様々な方から多様なご意見を頂いており、それらのご意見をもとに、新たな計画について、どのようなものがふさわしいか、総合計画審議会でご議論頂いているところです。また、総合計画の策定と並行して、市の中央地域について、新たな整備構想の策定を目指して検討を進めています。この整備構想は、南部地域の緑住都市構想、北部地域の緑園都市構想と並ぶもので、中央地域の整備構想を策定することにより、市内全域の構想がまとまることとなります。いずれも市民生活に大きな影響を及ぼす重要な計画です。この「広報かしわ」臨時増刊号は、第四次総合計画と中央地域の整備構想の検討内容について、ご説明するために発行しました。内容を十分ご覧になり、率直なご意見をお寄せ頂きますようお願いいたします。

総合計画の策定状況

基本構想の概要について

◆総合計画とは

総合計画とは、街の活力と豊かな市民生活を築くために、街づくりの目標と、それを実現するための施策を明らかにし、総合的・計画的な市政運営の指針となるものです。



策定の方法

総合計画は、柏市全体のことを定める大きな計画ですから、できるだけ多くの、また、幅広い意見が伺えるよう、市民意識調査や各種アンケート、有識者会議、職員提案会議など、様々な試みを行っています。

皆さんにお聞きした様々な意見を基に、市議会議員や学識経験者、公共の団体の代表、公募など二十五人の委員で構成する「総合計画審議会」で、具体的に計画を策定するための検討を行っています。このたび、基本構想について素案がまとまりましたので、皆様にお知らせすることとしました。なお、引き続き基本計画について検討を進めていく予定です。

◆なぜ、今策定しているのか

現在の第三次総合計画は、計画期間が平成三年度から平成十二年度までとなり、今年度で計画期間が終了します。そこで街づくりの指針となる新たな計画が必要となるわけです。

柏市を取り巻く環境

計画を作るには、柏市のことだけに目を向けているわけにはいきません。周りの市町村をはじめ、日本や世界の動きが、柏市民の生活にも大きく影響してくるからです。

十五年後の柏市が住みよい街になるには、市を取り巻く様々な環境が、今後どのような方向に向かうのか、しっかりと見極めなければなりません。

今後、気をつけなければならないこととして、次の八項目が考えられます。

①経済の低迷と財政の悪化

経済の低迷は、地域産業の活力低下を招き、税収の減少となつて、地方財政を圧迫しています。このため、市税収入に大きく頼っている市の財政運営も厳しさを増し、実施しなければならぬ多くの事業をかかえ、財源の確保と事務事業の見直しが課題となっています。

②人口増の鈍化と少子・高齢化の進展

我が国では、平均寿命の伸長による高齢者人口の増加や、出生率の低下により、急速な少子・高齢化が進んでいます。これらの現象は、労働力人口や社会保障制度などに大きな影響を与えるものと懸念されます。

③ライフスタイルの多様化

人々の価値観は、時代の移り変わりとともに変化が見られ、最近では、都会から自然へ、労働から余暇へと、豊かな生活に対する考え方が変わってきています。また、学校週五日制の導入も決まっています。子どもたちの生活サイクルにも変化が生じてきます。これら市民の意識や生活環境の変化への対応が求められています。

④グローバル社会の到来

情報通信技術の発展により、個人の情報収集や企業の経済活動などが、よりグローバル(地球規模)になっていきます。また、在住外国人の増加により、内なる国際化が進展しており、これらへの対応が求められています。

⑤安全意識の高まり

阪神・淡路大震災をきっかけとして、防災に対する関心が急速に高まりました。また、犯罪の低年齢化・凶暴化も進んでおり、これらに対する不安が広がっており、市民の安全・安心を確保するための危機管理体制のあり方が問われ

ています。また、これらの問題を解決する一つの方法として、地域社会の役割が見直されています。

⑥技術革新の進展

インターネットや携帯電話の普及に見られる、情報通信技術の飛躍的な発達により、様々な情報を多様な媒体で、瞬時に取り交わすことができるようになりました。これにより行政サービスの提供方法や、市政情報の公開など、行政活動の大幅な改善が期待できるようになりました。一方、公的な情報を発信する者の責任として、市が持つ情報を適正に管理することが、ますます重要となっています。

⑦環境・資源エネルギー問題の顕在化

増え続けるごみの問題を解決するため、ごみの減量化をはじめ、物をごみにならない循環型社会(リサイクル)の必要性が叫ばれています。また、地球温暖化や酸性雨など、地球規模の環境問題も切実なものとなっています。このため、省資源、省エネルギー意識の普及とともに、石油をはじめとした化石燃料の枯渇や環境への影響等を考えた、自然エネルギーの見直しなども行なわれています。

⑧地方分権の推進

行政の仕事は基本的に、国・県・市に別れています。市民に身近なことはできるだけ市民に身近な行政が行うべきとの考えにより、これまで国で行っていた業務が、地方へ移される権限委譲(地方分権)が進んでいます。これにより、地域の特徴を活かした、市独自のまちづくりを進めるための条件が整備されることとなります。一方、権限の委譲は責任の移譲でもあり、市の責任が重みを増すことでもあります。なお、業務の移行に伴う財源の移行が進んでいないことが、今後の大きな課題となっています。



計画期間

これまでの総合計画は十年計画であり、十年後の市の姿を描いたものでした。しかし、市の将来を見越して様々な事業を進めることが、十年間では期間が短いのではないかと考え、第四次総合計画では計画期間を

十五年間とし、平成二十七年までの計画にする予定です。一方、具体的な事業や施策は、社会経済情勢の変化に、迅速に対応する必要があることから、計画期間を短く設定することとします。

①基本構想

平成13年度～平成27年度の十五年間。

②基本計画

基本構想の計画期間十五年を前期・中期・後期の三期に分け、今回は、前期五か年計画を策定します。

③実施計画

三か年の事業計画を立て、一年おきに見直します。



街づくりのフレーム

街づくりのフレームは、計画の基となる重要な市の枠組みです。第四次総合計画では、十五年後(平成二十七年)の市の基本となる大枠を、次のとおり想定しています。

①人口

平成二十七年の人口は、三六六、六九〇人と見込んでいます。これは、平成十一年十月一日の常住人口三三三、八六五人を基準とし、過去十年間の人口の伸びや、常磐新線の建設に伴う北部整備等の進捗を一部見込んだものです。

②土地利用

市街化区域は四、七〇四ヘクタールで、全体の六四・五%、市街化調整区域が二、五八七ヘクタールで三五・五%となっています(市域面積二七、二九一ヘクタール)。今後の宅地需要に対しては、市街化区域内の未利用地の利用や北部整備で対応することとし、市街化区域は拡大しないことを原則とします。

③財政

市税収入の伸び率を年二%と想定すると、平成十七年度の一般会計の財政規模は、平成十二年度比約七・六%増の九百十八億四千万円と見込まれます。



■人口推計

単位：人

| 年次 | 北部等 | すう勢値 | 合計 |
|--------------|--------|---------|---------|
| 平成11年(1999年) | 0 | 323,865 | 323,865 |
| 平成12年(2000年) | 0 | 325,431 | 325,431 |
| 平成17年(2005年) | 2,390 | 333,083 | 335,473 |
| 平成22年(2010年) | 10,965 | 339,410 | 350,375 |
| 平成27年(2015年) | 24,195 | 342,495 | 366,690 |

※すう勢値：現在の人口に、特別な要因を加えず推計したもの。
北部等：常磐新線に伴う沿線整備の宅地供給などによる人口。

■年齢三区分別年齢構成

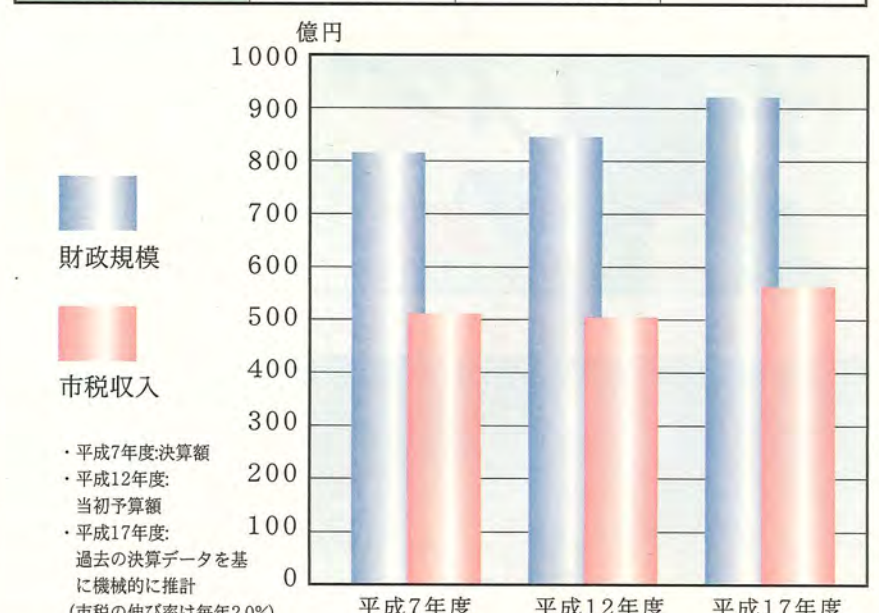
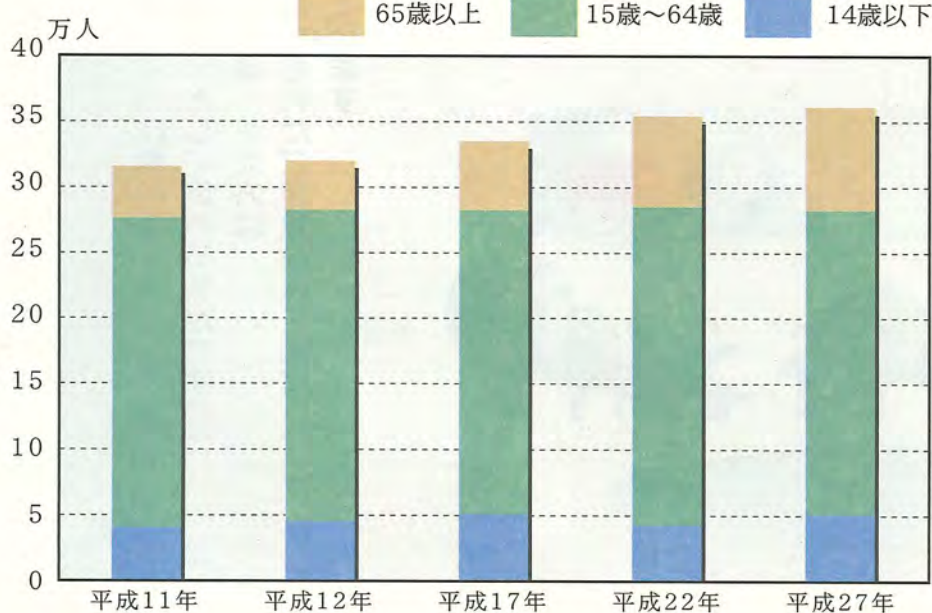
単位：%

| 年次 | 0歳～14歳 | 15歳～64歳 | 65歳以上 |
|--------------|--------|---------|-------|
| 平成11年(1999年) | 14.4 | 74.2 | 11.4 |
| 平成12年(2000年) | 14.4 | 73.5 | 12.1 |
| 平成17年(2005年) | 14.4 | 70.1 | 15.5 |
| 平成22年(2010年) | 14.9 | 65.7 | 19.4 |
| 平成27年(2015年) | 14.9 | 62.5 | 22.6 |

■財政規模

単位：億円

| 区分 | 平成7年度 | 平成12年度 | 平成17年度 |
|------|-------|--------|--------|
| 財政規模 | 827 | 853 | 918 |
| 市税収入 | 512 | 511 | 570 |



街

づくりの基本的な考え方

将来都市像

- ◆市民のまちづくりへの理解と責任ある参画
- ◆世代を超えたふれあいと地域で支える福祉、教育
- ◆多様な市民活動の活性化
- ◆地域コミュニティの育成
- ◆様々な世代の地域活動参画



- ◆多様な市民があらゆるライフステージで不安なく生活できる環境
- ◆すべての市民の人権の尊重
- ◆ゆとりと自然の潤いがある環境
- ◆水・緑、自然との共生
- ◆安心、安全で快適なまちづくり

- ◆あらゆる世代がいきいきと暮らせる環境
- ◆こころ豊かな人を育てるまち
- ◆先進性と親しみやすさが共存するまち
- ◆洗練され新しい発見があるまち
- ◆新たなまちと既存のまちの融合

十五年後に実現しようとしている柏市の街づくりの目標は、今後幅広いご意見を踏まえながら「将来都市像」として定める予定です。将来都市像を定めるにあたって、基本となる視点・考え方は、柏市を取り巻く環境や、これまで皆様から寄せられたご意見などを勘案し、次の三点に、まとめることができると考えています。

○安心

すべての市民の立場や尊厳が尊重される社会を築きます。また、日常生活に不安を感じることなく、安全で快適な暮らしを送ることのできる環境を整えます。そして、誰もが住みたいと思える街づくりを目指します。

○支え合い

市民と行政が互いに意見交換できる環境を整え、市民が街づくりに責任をもって参画できる仕組みを築きます。また、市民の主體的な街づくり活動を支援し、男女の違いや世代を超えて、互いに支え合う街づくりを目指します。

○希望

柏市の特性を活かし、都市としての魅力を向上させるとともに、豊かな自然との共存を図ります。そして、すべての市民が日々を充実した思いで暮らすことのできる、多様な魅力と活力のある街づくりを目指します。



【施策の大綱】

将来都市像を実現するために必要となる施策の方向は、次の六項目を考えています。この大綱では、今後の街づくりは市民と行政が協力して作り上げることが最も重要なことと考え、第一の柱に「市民との協働」を掲げました。その上で、市民の学習や相互の交流を促進し、都市の活力を高め、自然環境にも配慮し、健康・福祉の基盤を確立しながら、いつまでも住み続けたいと思える柏を築く、第六の柱「定住促進」につながる構成にしています。

①市民との協働(市民とともに歩むまち)

▼市民の自立と参加を促進する(市民参加・情報公開)

▼コミュニティ活動を推進する(地域活動の活性化)

▼男女がともに役割を果たす社会を形成する(男女共同参画)

③活力・賑わい(活力と賑わいのあふれるまち)

▼広域的な活力と役割を担う都市拠点整備(都市・拠点間交通)

▼時代を先導する学術・技術と先端産業を育てる(学術・技術振興、先端産業育成)

⑤健康・福祉(育て合う、支え合うまち)

▼生涯健康で元気に暮らせる環境を整備する(医療・健康管理)

▼ともに支え合う地域社会を形成する(社会福祉)

▼安心して産み育てる環境を整備する(子育て支援)

②教育・交流(人と交流が育まれるまち)

▼子どもたちが育つ環境を整備する(学校教育・青少年健全育成)

▼市民の学習機会と先進的な文化を生み出す(生涯学習・文化振興)

▼活発なスポーツ資源を活かす(スポーツ・レクリエーション振興)

▼ふれあいによる新しい交流をつくる(地域間交流・国際交流・国際理解)

④環境共生(自然を身近に感じるまち)

▼豊かな水と緑に親しむ(環境保全・緑地)

▼環境に優しい循環型社会を形成する(衛生・廃棄物処理)

⑥定住促進(快適に住み続けられるまち)

▼優しさと潤いのある都市基盤を整備する(都市基盤全般)

▼快適でゆとりある生活環境を整備する(住宅・住環境、上・下水道)

▼安全な生活環境を整備する(消防救急体制・交通安全・防犯・防災)

▼バランスの取れた都市構成を実現する(土地利用・域内交通体系・地域整備)



今号では、基本構想についてお知らせしましたが、総合計画審議会では、今月から基本計画の検討に入り、将来都市像を含め、今年十二月までに新たな総合計画案を策定します。そして、来年三月の市議会に計画案を諮り、承認を得られれば、平成十三年度から新たな計画がスタートすることになります。

◎問い合わせ 企画課

○ご意見をおよせください

市では、第四次総合計画と中央ゾーン整備構想について、今年度中にとりまとめたいと考えています。

皆さんが日々お考えになっていることや、今回の特集をご覧になったご意見・ご感想などを市までお寄せください。

なお、締め切りは、7月20日(木)とさせていただきますので、よろしくお願いします。

(お伺いしたいご意見)

- 柏市の将来像として、どのような「まち」を期待していますか。
- 「街づくりの基本的な考え方」と「施策の大綱」の内容については、どうお考えですか。
- 今後、柏市が重点的に取り組むべき課題は何だとお考えですか。
- 中央ゾーンの整備の方向性や整備テーマについては、どうお考えですか。また、将来像についてもご意見をお寄せください。



| | |
|------|-----------|
| 氏名 | 住所 |
| | 〒□□□□□□□□ |
| 電話番号 | |
| | |

料金受取人払

柏局承認

203

差出人有効期間
平成12年10月
31日まで
(切手を貼らずに
お出しください)

277-8711

柏市柏五丁目一〇一

柏市役所
企画部 企画課 行

総合計画・中央ゾーン整備構想に関する意見



中央ゾーンの現況

中央ゾーンは、豊四季台、柏中央、旭町、新富、新田原、富里、永楽台の各コミュニティ地区と、北柏駅周辺を含んだ約十六平方キロメートルの区域です。

この区域には柏駅・北柏駅・南柏駅・豊四季駅の四つの駅があり、国道六号・十六号が交差する交通条件に恵まれ、柏駅周辺には大型商業施設が立地するなど、市内でも早い時期から都市化が進んできました。

また、中央ゾーンは、大堀川、大津川、手賀沼などの豊かな自然資源に囲まれています。

区域の人口は約十二万人で、柏駅周辺のコミュニティ地区では、減少傾向にあります。また、六十五歳以上の

方の比率を表す高齢化率が約一二％と、市内でも高齢化が進んでいる地域で、高齢化率が二〇％を超える町会もいくつかあります。

柏駅周辺は多くの人が集まり、最近ではストリートミュージシャンの活動など、活気や賑わいにあふれた場所となっています。

一方、駅周辺の道路の混雑や人ごみ、治安や衛生の問題も指摘されています。

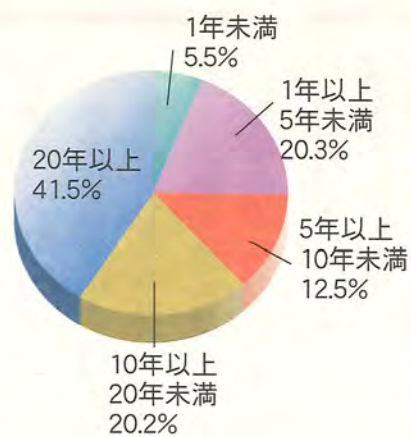
また、現在、中央ゾーンでは、柏駅周辺の市街地再開発事業や東口の交通円滑化、中心市街地の活性化、北柏駅・南柏駅・豊四季駅の土地区画整理事業による駅前地区の整備、大堀川リバーサイドパークなどの計画を進めています。



市民アンケート

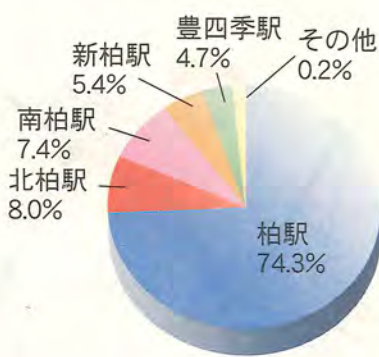
中央ゾーンにお住まいの方の生活、考えなどをお聞きするため、昨年十一月にアンケート調査を行いました。一三〇〇人の方にお願ひし、八三八通の回答をいただきました。その主な内容をお知らせします。

●**居住年数**：二十年以上が全体の四割と、長くお住まいの方が多く特徴となっています。

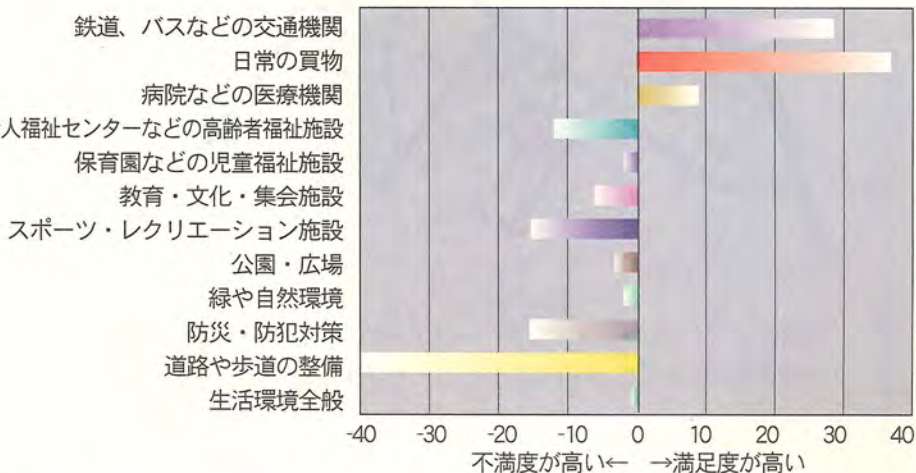


六十歳代以上になるとバスの利用が増える傾向となっています。

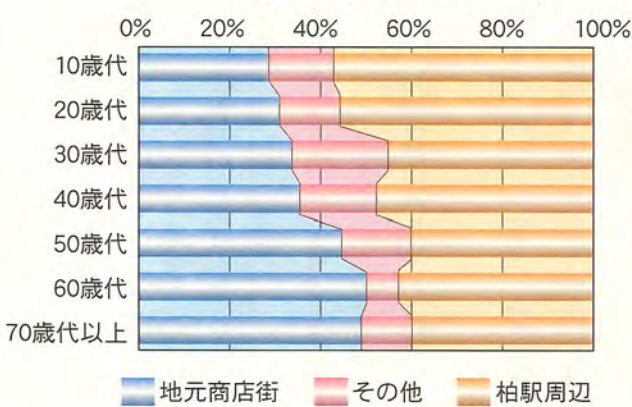
■主に利用する駅



■生活環境に対する満足度



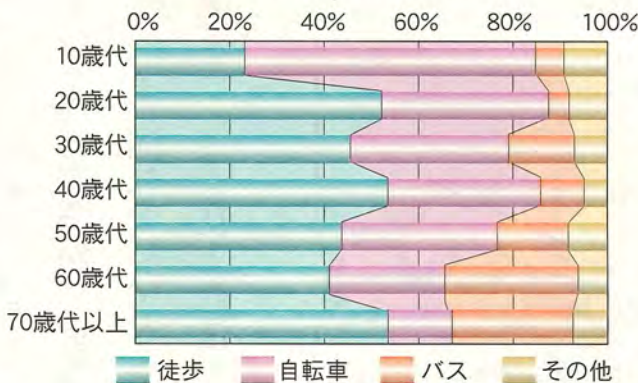
■年代別の日常品を買う場所の割合



●**鉄道利用**：普段柏駅を利用されている方が全体の約七割と多くなっています。また、駅までの交通手段は徒歩が約五割となっています。

●**買物動向**：日常品・食料品などの普段の買物は、柏駅周辺の商業施設の利用が五割弱、地元商店街が約四割となっていますが、日用品等以外では柏駅周辺が約八割となっています。また、年齢が高くなるにつれ、地元商店街の利用が増える傾向にあります。

■柏駅利用者の年代別交通手段割合



●**生活環境**：生活環境について、五段階（満足・やや満足・どちらともいえない・やや不満・不満）で評価していただきました。満足の回答をプラス一〇〇点、逆に不満をマイナス一〇〇点というように指数であらわした結果が次のグラフです。

交通機関、日常の買物の利便さについては満足度が高く、道路や歩道の整備、スポーツ・レクリエーション施設、防災・防犯対策などは満足度が低い結果になりました。

●**好きな場所、嫌いな場所**：好きな場所については、手賀沼や大堀川周辺、ふるさと公園などの公園、柏駅周辺などがあげられました。一方、嫌いな場所については、柏駅周辺（狭い、混雑、怖いなど）が最も多く、道路（混雑、歩道がなく危険など）についても多くの意見がありました。

●**発展方向**：将来どのような地域に発展してほしいかとの問いについては、「自然に囲まれ、緑豊かな地域」を望む声が多く、次いで「医療施設や福祉施設が充実した地域」、「交通基盤が整備され、買物や通勤に便利な地域」、「文化・スポーツ・レジャー等の施設が整備され、豊かな余暇活動ができる地域」が望まれています。

中央ゾーンにお住まいの柏さん一家の暮らしをご紹介します。

(アンケート結果より)

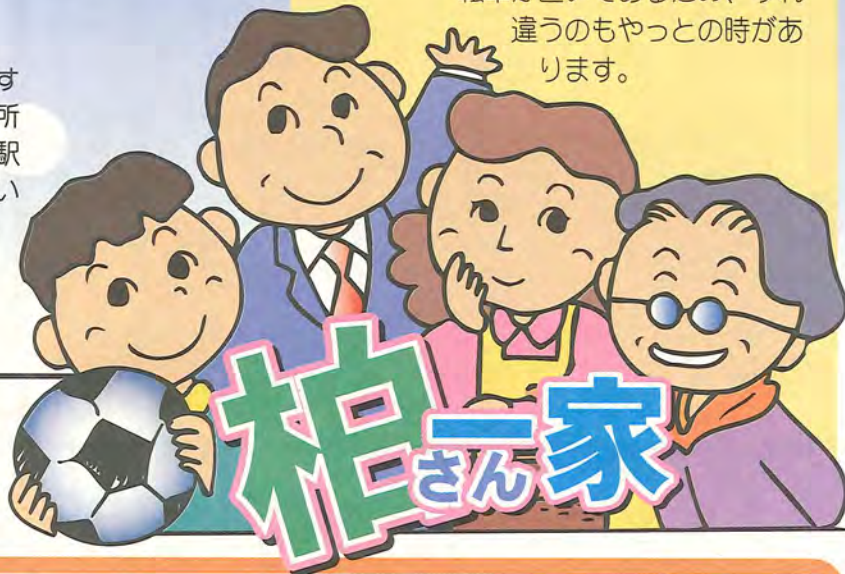
太郎さんは都内に通勤しています。柏駅まで自転車で15分の道のりです。朝、駅前にごみが散らかっているのを見かけることがあります。また、仕事で帰りが遅くなった時など夜道が暗いと感じています。週末にかずひろ君と柏レイソルの応援に行くのが楽しみです。

かずひろ君は、サッカーが得意ですが、思いっきりボールを蹴れる場所がないことが不満です。また、柏駅周辺に遊びにいくと、ちょっと怖いと感じることがあります。

柏さん一家は休日によく車で柏駅に出かけます。にぎやかな雰囲気が好きで、ショッピング、食事、映画と、いろいろ楽しんでいます。しかし、道路が渋滞して、駐車場に入るのに並ぶことも少なくありません。また、人通りが多く、歩道に自転車が置いてあるため、すれ違うのもやつの時があります。

花子さんは、自然が好きで手賀沼や大堀川がきれいになるのが願いです。最近、身近なところに緑が少なくなったと感じています。自宅は南柏駅にも近いのですが、お店が少なく、品揃えや買物で不便を感じています。ボランティアに関心があり、リサイクル活動などをしたいと思っています。

てるさんは、健康のため、毎日ウォーキングをしています。でも、歩道が少ないので、安全に歩ける道があればと願っています。また、ダンスが趣味で、友達と集まって楽しむたいと思っています。



柏さん一家は、太郎さん・花子さん夫婦、太郎さんのお母さんのてるさん、息子のかずひろ君の4人家族です。柏には20年ほど前に引っ越してきました。

整備の方向性とテーマ

これまでの調査や委員会でのご意見などから、中央ゾーンのまちづくりについて、いくつかの課題や中央ゾーンの役割、整備の方向性が明らかになりました。

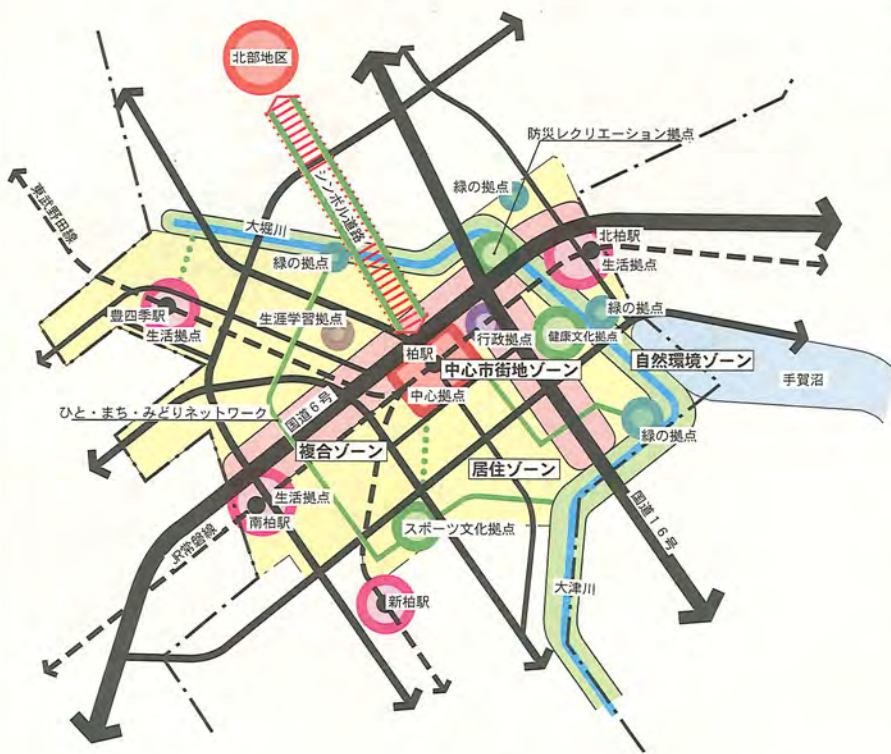
●主なもの●

- ◆ 広域的な拠点、柏市の顔である柏駅周辺の発展性・可能性
- ◆ 緑園都市、緑住都市との連携
- ◆ 居住環境の改善
- ◆ 豊かな自然環境の保全・活用
- ◆ 健康、スポーツ、文化、市民活動等の地域資源を活かした拠点の形成
- ◆ 北柏駅や南柏駅、豊四季駅周辺への生活支援機能の導入
- ◆ 防災・防犯対策
- ◆ 安全に歩ける環境の確保、交通混雑の改善
- ◆ 暮らしさと魅力の創造・発信

これらをもとに、中央ゾーンのまちづくりの方向として、次に示す7つの整備テーマを考えました。

- ◎ 中心市街地の活力を維持・増進し、地域内外に開かれた**都心づくり**
- ◎ 地域の資源と特性を活かし、便利で魅力ある**拠点づくり**
- ◎ 都市化の進展に対応し、安心して暮らせる**居住環境づくり**
- ◎ 豊かな**自然**を保全・活用し、健康で安らぎのある都市空間づくり
- ◎ 誰もが主体的に活動し、まちづくりに参加できる**市民活動基盤づくり**
- ◎ 都心、拠点を結び、自由に行き交える**交通環境づくり**
- ◎ **個性**をつくり、育て、発信し、暮らしさを実感する都市づくり

中央ゾーンの都市構成概念図(案)



整備テーマに沿って、4つのゾーン区分、緑や健康、スポーツなどの地域拠点、交通体系、歩行者ネットワークを概念図に示しました

今後、中央ゾーンの目指す将来像や将来像を実現するための基本方針、七つの整備テーマに基づく具体的な事業や施設の考え方を皆さんのご意見をいただきながら、委員会で検討し、今年十二月までに整備構想をとりまとめ、第四次総合計画に反映していきます。

◎問い合わせ 企画課